



消防大学校だより



警防科における教育訓練 ～指揮訓練について～

消防大学校では、警防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させるとともに、教育指導者等としての資質を向上させることを目的に、専科教育警防科の教育訓練を実施しています。平成30年度は、第103期（平成30年6月7日から7月26日まで）60名、第104期（平成30年10月18日から12月6日まで）60名、合計120名の学生が、所定の教育訓練を終え無事卒業しました。今回は、警防科において実施した「指揮訓練」について紹介します。

1 安全管理能力の向上

消防大学校では、活動中における受傷事故を無くすため、安全管理能力の向上に関するカリキュラムを多く取り入れており、指揮訓練はその知識を実践する場と位置付けています。

訓練に際しては「不安全行動」及び「不安全状態」を徹底的に排除し、危険に対する感受性の練磨を図るとともに、日頃の訓練を通じて共通認識を持つことの必要性を学びます。また、仮に訓練中、隊員がミスをして受傷しない訓練環境の創造と、それに応じた安全管理体制のあり方について一貫した教育訓練を実施しています。

2 指揮能力・技術の向上

消火活動における指揮をあらゆる災害における指揮の基本と位置付け、段階を踏んで指揮能力・技術の向上を目的とした教育訓練を実施しています。

(1) 指揮訓練Ⅰ，Ⅱ

指揮訓練Ⅰでは、一般的な木造・防火造建物火災を想定した小隊指揮訓練を、指揮訓練Ⅱでは同様の想定で中隊指揮訓練を繰り返し実施し、指揮技術の体得を目指します。なお、小隊指揮訓練については、効果確認も実施しています。



指揮訓練Ⅱ

(2) 指揮訓練Ⅲ，Ⅳ

指揮訓練Ⅲでは、単発の建物火災及び同時火災への対応に



指揮訓練Ⅳ

ついて机上シミュレーション訓練を実施します。指令センター及び消防本部の対応訓練も同時に実施することで、組織的活動における情報共有の重要性と情報処理技術を学ぶとともに、各級指揮者の任務別指揮活動について確認します。また、指揮訓練Ⅳでは、同じく机上シミュレーション訓練により、大隊長活動要領と指揮隊業務について実践します。

(3) 総合訓練

総合訓練Ⅰは、東京消防庁の化学機動中隊を教育支援隊として招き、NBC災害対応の基本的活動を学びます。また、総合訓練Ⅱでは爆弾テロ災害等、多数傷病者対応について、机上シミュレーション訓練で全体の流れを学んだ後、実働訓練において傷病者、情報、救急車の流れや、現場の管理について実践的に学びます。総合訓練Ⅲは、学生が主体的に訓練の企画立案を行い、指揮技術及び安全管理の実践等、総合的な訓練を実施することでその効果を確認するとともに、訓練終了後の検討、訓練結果報告を実施し、研修期間の集大成としています。

研修を終えた学生からは、「現場指揮、安全管理の基礎を根本から学ぶことにより消防に対する概念が変わり意識改革された。」「段階を踏んで実技に移っていったので、指揮等に不安な私でもスムーズに指揮訓練等に入れたので助かりました。」「指揮訓練では、繰り返し訓練を行うことで、指揮要領が身についたように思います。」等の意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校で体得した知識と技術を元に、各所属においてさらに研鑽を重ね、指揮者としての責務を果たすべく力を発揮するとともに、ともに汗を流した同期学生とのネットワークを活かしそれぞれの地域で住民の生命・身体・財産を守る活躍が期待されます。



消防大学校だより



救助科における教育訓練 ～指揮能力の向上について～

消防大学校では、救助業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させ、救助業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的として、専科教育「救助科」の教育訓練を実施しています。平成30年度は、第77期（4月11日から6月1日まで）60名、第78期（8月22日から10月12日まで）59名、合計119名の学生が、240時間の教育訓練を終え無事卒業しました。

その教育内容について紹介します。

消防大学校は消防職団員の幹部教育の場であることから、救助科でもこれからの消防幹部には欠かせない組織管理やリーダーシップ論、ハラスメント対策等の講義を盛り込みつつ、寮生活も含めて学生同士のコミュニケーション能力の向上を図り、消防幹部としての「人づくり」を進めてきました。



震災救助II (東京消防庁第八消防方面本部)

災害対応という観点では、すべての災害現場に共通する「現場指揮」と「安全管理」を指揮者教育の柱とし、講義を通して基礎から救助事例にいたるまでを具体的に学び、それらをもとに実科訓練として火災救助をはじめ、交通救助、編みロープ等による救助、山岳救助といった一般的な災害から、震災救助、更には土砂災害救助等の自然災害まで、各種救助事象における実践的な訓練を実施しました。

火災現場での現場指揮と安全管理を学ぶ実火災体験型訓練においては、訓練施設内で燃焼させた木製パレットの燃焼状況から火災の成長を段階的に確認することで、屋内進入には欠かせない火災性状の基礎知識を身につけるとともに、熱体験をすることによって完全着装の重要性、更にはフラッシュオーバーの前兆現象であるロールオーバーを確認したときの脱出判断を具体的に体験しました。

また特殊災害や救急対策として、NBC対応及び多数傷病者事故の大規模な部隊運用訓練を実施することで、それらの災害に特化した指揮能力のみならず、他機関連携そして指揮システムのあり方を学びました。

指導演習では、所属部下の経験年数に合わせた指導を

想定し、班毎に消防救助基本操法等について訓練資料の作成から、指導時における指揮者としての姿勢、指導要領までを計画から実践まで実施しました。



指導演習

最後に救助科企画総合訓練についてです。この訓練は入校中における教育のまとめとしての位置づけで2日間にわたり実施しました。学生自らが企画、立案した訓練を、消防大学校に近隣の高度救助・特別高度救助隊を教育支援隊として招き、その訓練進行から評価にいたるまでを学生が中心になって実施することにより、所属の訓練指揮者としての企画力向上に努めました。



救助科企画総合訓練(火災救助)



救助科企画総合訓練(高所救助)

研修を終えた学生のアンケートからは、「自身が所属の幹部であるという自覚を持つことができた」、「自身の今後の課題が明確になった」、「現場指揮者としての隊員教育、安全管理を具体的に学ぶことができた」、「同期の仲間との交流が大きな財産になった」等の教育訓練全般及び学生相互の交流を含めて、総合的に有益であったと評価する意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校で修得した幅広い高度な知識や技術に加え、全国から集まったかけがえのない仲間から得た情報を活かし、救助業務における指導者及び組織の幹部として、全国各地域で安心と安全の確保・維持のため活躍することが期待されます。

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712